

北九州工業高等専門学校	開講年度	平成29年度(2017年度)	授業科目	制御機器I
科目基礎情報				
科目番号	0113	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科	対象学年	4	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	「最新電気機器学」 宮入庄太(丸善株式会社)			
担当教員	吉野 慶一			

### 到達目標

- 鉄心で作成したインダクタンスが理解できる。
- 変圧器に関するエネルギー変換器としての電気的特性と等価回路が理解できる。

### ループリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	磁化曲線を使ってインダクタンスを計算できる。	磁化曲線を使ってインダクタンスを理解できる。	磁化曲線を使ったインダクタンスが理解できない。
評価項目2	理想変圧器を使って1次換算した等価回路が計算できる。	理想変圧器を使って1次換算した等価回路が理解できる。	理想変圧器を使って1次換算した等価回路が理解できない。
評価項目3	実際の変圧器の等価回路が計算できる。	実際の変圧器の等価回路が理解できる。	実際の変圧器の等価回路が理解できない。

### 学科の到達目標項目との関係

準学士課程の教育目標 B② 自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。  
専攻科教育目標、JABEE学習教育到達目標 SB② 自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解決できる。

### 教育方法等

概要	本授業では、実際に使用される変圧器の知識を習得することを目的とする。
授業の進め方・方法	まず、電動機に関する電気的・機械的法則を学び、その後、直流電動機を学習する。講義と並行して演習問題を解くことにより理解を深める。電磁気・電気回路の基礎知識が必要である。また、学習単位科目であるため、授業とは別に変圧器に関する課題を与え、更に理解を深める。
注意点	

### 授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1週	・ガイダンス(シラバスの説明等) ・変圧器	・これから学ぶ内容の概略について理解する。
	2週	・自然現象の共通性とファラデーの法則 ・印加電圧と磁束	・ファラデーの法則、速度起電力が理解できる。
	3週	・磁化曲線	・ヒステリシスループを使って磁化現象が理解できる。
	4週	・インダクタンス	・機器の形状や材料からインダクタンスを計算できる。
	5週	・鉄心磁束の飽和	・磁気の飽和が理解できる。
	6週	・極性の表示 ・理想変圧器の動作	・理想変圧器とその等価回路が理解できる。
	7週	・等価回路	・理想変圧器の等価回路が理解できる。
	8週	・中間試験	・1~7週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解を図る。
2ndQ	9週	・中間試験の内容についての解説 ・実際の変圧器の概説	・中間試験の内容を理解する。 ・実際の変圧器の様と種類が理解できる。
	10週	・二つの巻線の磁気結合	・漏れ磁束と結合係数が理解できる。
	11週	・実際の変圧器の等価回路	・実際の変圧器の等価回路が理解できる。
	12週	・電圧変動率	・電圧変動率が計算できる。
	13週	・実際の変圧器の等価回路	・実際の変圧器の等価回路が理解できる。
	14週	・効率と鉄損	・鉄損、銅損、効率が理解できパワーフローが書ける。
	15週	・期末試験	・9~14週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解を図る。
	16週	・期末試験の内容についての解説	・定期試験の内容を理解する。

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	電磁気	電流に作用する力やローレンツ力を説明できる。	3	
			磁性体と磁化及び磁束密度を説明できる。	3	
		電力	三相交流における電圧・電流(相電圧、線間電圧、線電流)を説明できる。	3	
			対称三相回路の電圧・電流・電力の計算ができる。	3	
			直流機の原理と構造を説明できる。	3	
			変圧器の原理、構造、特性を説明でき、その等価回路を説明できる。	3	

### 評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100

基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	0	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0